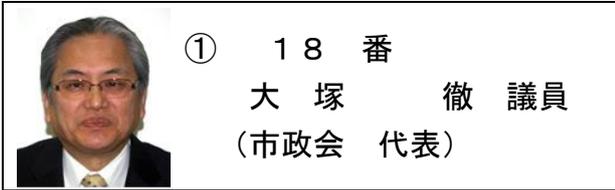


平成31年 第1回 帯広市議会（定例会）
市政執行方針に対する質疑 並びに 一般質問 発言通告要旨一覧

▼平成31年3月7日（木）

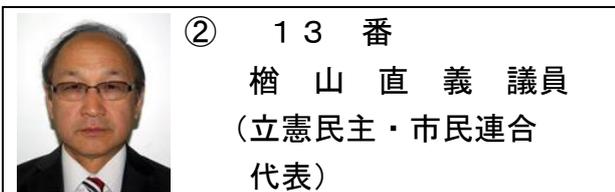


1 市長の政治姿勢について

- (1) 9年間の成果と課題
- (2) 財政制約の中での市長の手腕

2 市政執行方針と予算編成について

- (1) 地域経済の将来発展の基盤をつくる
- (2) 未来に向けて活躍できる人をつくる
- (3) 安全安心に暮らし続けられるまちをつくる
- (4) 主要な施策の具体的な推進方策



～市長の政治姿勢とまちづくりの基本方向～

- ・ 政治を行うことの基本を憲法に拠る考え（憲法観）
- ・ 「圏域」構想への考え方、新しい総合計画の視点について

1 安全に暮らせるまち

- (1) 防災・減災
 - ・ 洪水や大地震災害を教訓とした防災体制づくり
- (2) オスプレイへの対応
 - ・ 帯広市の基本姿勢と情報提供

2 健康でやすらぐまち

- (1) 幼児教育の無償化
 - ・ 無償化が地域に与える影響、自治体の財源措置

(2) 地域包括ケアシステム

- ・ 帯広市の課題を踏まえた在宅医療と介護連携推進

3 活力あふれるまち

- (1) 産業振興
 - ・ フードバレーとかちの成果、経済連携協定の影響
- (2) 中心市街地活性化
 - ・ 市街地再開発事業と中心市街地活性化基本計画
- (3) 観光振興
 - ・ TVドラマのプロモーションとフィルムコミッション事業
- (4) 森林の保全・管理
 - ・ 森林環境振興基金の設置と森林管理

4 自然と共生するまち

- (1) バイオマス等新エネ導入
 - ・ FIT制度の変更を踏まえた取り組み計画

5 快適で住みよいまち

- (1) 除雪体制の強化
 - ・ 毎年の除雪実施計画への位置づけと市民周知

6 生涯にわたる学びのまち

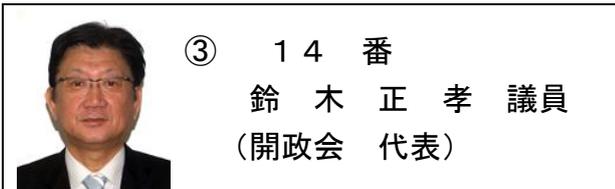
- (1) 小中一貫教育
 - ・ 条件整備と段階的取り組み
- (2) 教職員の長時間勤務
 - ・ 長時間勤務の本年度調査の分析と今後の取り組み
- (3) 高等教育機関の整備
 - ・ 3大学の経営統合と新大学の形態

7 思いやりとふれあいのまち

- (1) コミュニティの活性化
 - ・ 地域実態調査に見る市民意識を踏まえた取り組み

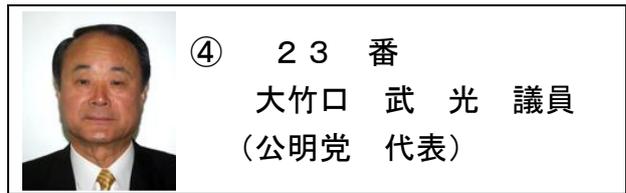
8 自立と協働のまち

- (1) 公共施設マネジメント
 - ・ 公共施設再配置計画の策定
- (2) 市民参加の支援
 - ・ 市民協働事業とボランティア・NPOへの行政支援
- (3) 新公会計制度の導入
 - ・ 市民的意義とシステム運用を通じた職員の意識改革

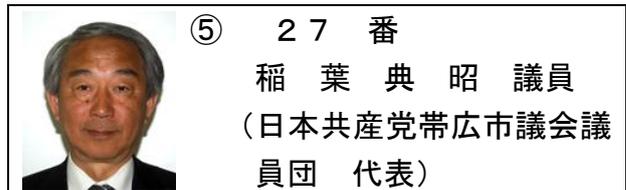


- 1 少子化時代における自治体経営について
 - (1) 帯広市の未来像
 - (2) 行財政改革
 - (3) 広域連携
- 2 フードバレーとかちの推進について
 - (1) 農業振興
 - (2) 観光振興
 - (3) エネルギー
- 3 子供からお年寄りまで安心して暮らせる地域づくりについて
 - (1) 子育て支援
 - (2) 統合医療
- 4 スポーツのまちづくりについて
 - (1) 推進体制
 - (2) 施設整備
 - (3) 人材育成

▼平成31年3月8日（金）



- 1 市長の政治姿勢について
 - (1) SDGsを根底にしたまちづくり
- 2 活力あふれるまちについて
 - (1) 人口動態の現状と課題
 - (2) 地方創生に向けた観光政策の推進
 - (3) 外国人労働者の対応と多文化共生社会の構築
- 3 安全に暮らせるまちについて
 - (1) 防災・減災対策の現状と課題
- 4 自立と協働のまちについて
 - (1) スマート自治体への転換
 - (2) 行政手続きの効率化



- ～市長の政治姿勢～
- 災害に強いまちづくりは、子育ても老後も安心できるまちづくり
- 1 帯広市の現状
 - (1) 地域の現状
 - (2) 暮らしの現状
 - 2 地域循環型経済で未来ある帯広＝災害に強いまちづくりで安全安心、食と農とエネルギーの自給社会
 - (1) 地域循環型経済の主役は中小企業者
 - (2) 地域経済再生の要は、働く市民の所得を増やすこと
 - (3) 食と農は～地域と日本の食料基地
 - (4) 環境にやさしいまちづくりは、地域ブランド力を高める
 - (5) ブラックアウトのない地域に～エネルギーの地産地消

- (6) 新しい産業と雇用の拡大が、若者の結婚・出産・子育ての願いをかなえる

3 「脱貧困宣言」で暮らしの安心、暮らし続けられるまちづくり

- (1) 「子どもの貧困」はあってはならぬもの
- (2) 低所得でも不安を抱かずに生活できる三つの要素
 - ① 住むところが保障されていること
 - ② 水・電気など公共料金が低く抑えられていること
 - ③ 安心して医療が受けられること

4 人口減少社会でも市民生活を豊かにするまちづくりを

- (1) コンパクト・集中ではなく、日常生活圏の整備を
- (2) 行政のアウトソーシングではなく、地域化を